

## 農学専攻ミッション

### 農学専攻の定義

農学専攻は、主として農作物\*の生産と利用に関連する分野の集合体である。農学専攻では、農作物の栽培・育種、生産技術・生産環境の向上など、主として第一次産業に関わる事柄を扱うが、一部は生産物の加工技術・品質向上、嗜好性・栄養生理機能性評価など、第二次産業や第三次産業にも関わる幅広い事柄を扱い、科学の深化、技術の改良および産業と社会の発展に貢献する。

### 農学専攻の研究活動におけるミッション

農学専攻における研究の目的は、農作物の生産と利用に関連する技術を、国際的な視点も加えて、科学的なアプローチから支えることである。農業の基盤となる農作物や環境などに加えて、農作物の利用法も研究対象とし、実験室におけるミクロなレベルの実験から圃場での実証実験、生産現場における調査・研究にいたる過程が含まれる。農地における実証研究までを担う点が、農学専攻の研究活動の特徴であり独自性でもある。

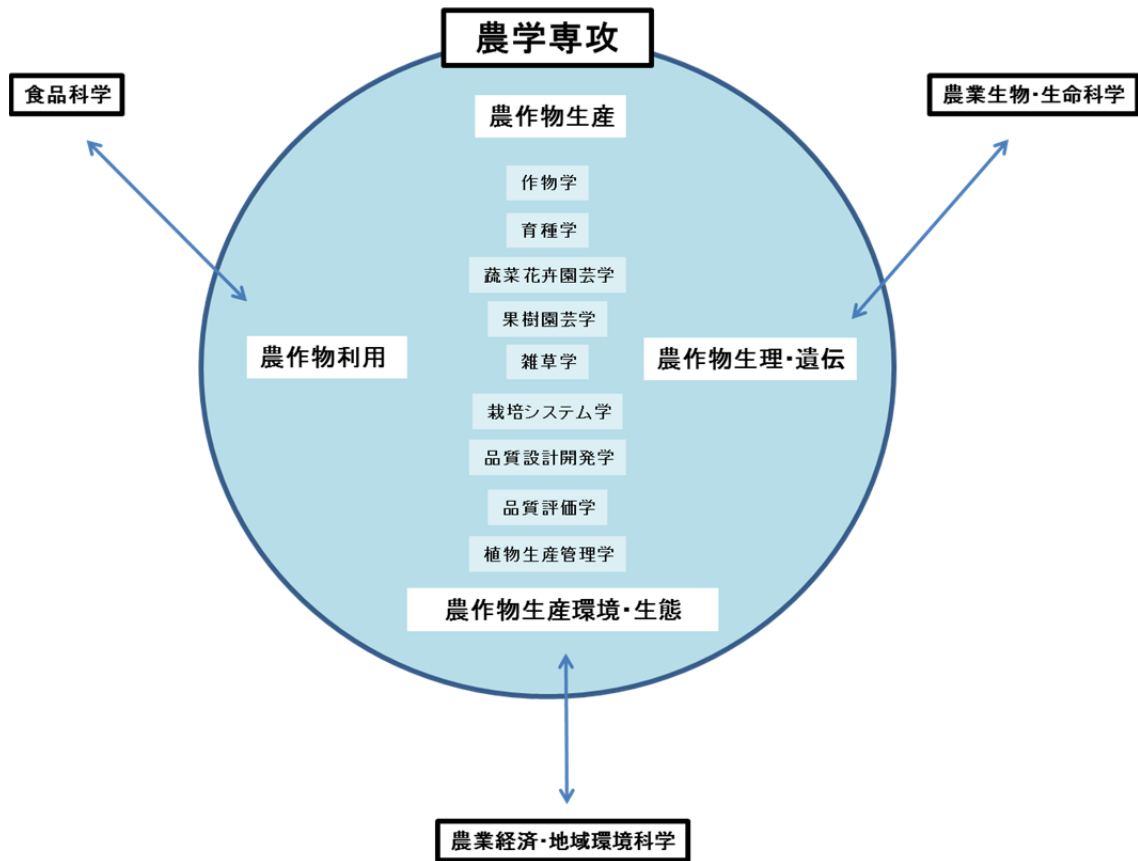
### 農学専攻の教育活動におけるミッション

農学専攻において行う教育の目的は、農業に貢献する優れた研究者や指導者を育成することである。日本の農業現場で活躍できる人材のみならず、農作物の産業利用に貢献し、国際社会においても活躍できる人材を育成する。京都大学の基礎理念に基づき、将来の農業および関連産業に従事する者の資質を高めるための教育を行い、独創的かつ高い倫理性と社会性を備え、基礎の視点と応用展開とのバランス感覚と国際的な視点をもった人材を育成する。

### 農学専攻の社会に対するミッション

農作物の新しい生産技術や、新品種の育成とその利用法の開発により、日本の農業生産の発展に貢献するとともに、学術論文や情報媒体を通じて研究成果を積極的に発信し、諸外国の研究者と交流を深め、世界における農学・農業の発展にも貢献する。さらに農学の高等教育を受けた人材を社会に輩出し、農林水産省などの官公庁や第一次産業関連企業、ならびに食料関連の機関や企業に人材を供給して、次世代の農業を支え、人類社会の持続的発展に貢献する。

\*ここでいう農作物とは、イネ、ムギ、ダイズなどの食用作物、チャやタバコなどの工芸作物や特用作物、牧草などの飼料作物、野菜類や花卉類、および果樹類などを指す。



(参考) 農学専攻9分野と他の農学領域との関連性を表す模式図